

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200054		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	グループホーム 諏訪の森		
所在地	熊本県上天草市姫戸町二間戸276-5		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成29年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの今までの生活リズムに合わせ、今までの自宅生活と変わりがないよう支援しています。苑外散歩を計画し1日のスケジュールに入れ提供しています。また、季節感を感じて頂けるようにホールに季節の花をいけたり毎月の行事を行いホールの壁紙作りや塗り絵を行っています。入居者様の残存能力が維持出来るように、出来られるところは行ってもらうようにしています。また、入居者様・ご家族様の要望に応えられるよう、多職種の連携を図り入居者様が安全に安心して生活を送って頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三方海に囲まれ、リビングから利用者が馴染んだ風光明媚な景色を楽しむことができます。数か所ある共用部分は外の景色を見ることで採光に恵まれ、利用者に不安を与えることなく来訪者を迎えるスペースが確保されています。玄関には利用者一人ひとりの思いや希望を記した短冊が掲示し、ホールはじめ共用部分には事業所での活動写真や作品が展示されて、グループホームならではの利用者の生活を大切にしたいという管理者の熱意と、職員のやる気と協力を伺うことができ、地区文化祭出展を誘われるまで至っています。近隣の散歩や地域行事参加を積極的に行うことで、利用者さんの新たな馴染み関係作りに熱心に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の生活リズムに合せ、24時間安全で安心できる介護の提供の理念のもと、それぞれに合せた支援を行っています。	理念の共有と実践のため、共用部分に利用者一人ひとりがしたいことを掲示して明確に示し、管理者の積極的なリーダーシップのもと職員間で共有して日々努力されています。	職員の自主性を引き出し、理念に基づくケアを実現できる次のリーダー育成につながるとういですね。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の参加。町内行事の参加に努めている。(秋の例大祭、文化祭、えびす祭り等)	利用者とともにえびす祭りや文化祭など地域の行事には積極的に参加され、地域の住民としての認知もされています。日常的な交流は少ないようです。	行事の機会を利用して、地域の方々が事業所に立ち寄り、更に日常の交流につながる工夫が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回ボランティアを受け入れ入居者様と過ごして頂いている。又、運営推進会議メンバーの方をおして認知症についてのお話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の報告や、地区の行事などの確認し参加しています。	運営推進会議参加メンバーである地区の役員さんより、利用者さんの作品展示を促される提案などがなされています。次年度は計画的な準備をして実現するための検討が始まっています。	会議で提案されたこのような事案が、利用者さんの楽しみや、家族との交流につながる事業所の取り組みとなるとよいですね。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいています。、当事業所の運営などなんらかの問題が発生した場合は、相談ができる体制である。今年度は、特になかった。	運営推進会議へは行政担当者の参加が毎回あり、事業所の実情や取り組みについての情報提供が行われています。管理者は行政からの新しい情報取得にも積極的に望んでいます。	市担当者へ事業所として望むことを明確に伝えると同時に、地域の資源としての事業所の役割で担えることの提案をされることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。また、身体拘束について研修を行い、身体拘束のない介護に努めています。必要と思われる場合は、主治医に診断いただきご家族様に了承をいただき記録するように努める。	外部研修のほか、法人内の研修も行われています。「言葉の使い方によって身体拘束になっているのではないか。」という問題意識を管理者が強くしています。	やむを得ず夜間センサーマットを使う場合なども、様子を注意深く観察することとカンファレンスにより素早い解消になるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。研修や勉強会等で学ぶ機会を作る。虐待が起こらない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作り理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、ご家族様に説明入居してもらっている。その他入居後の相談もその都度説明し理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にその都度、今の入居者様の様子を報告するよう努めている。	玄関に意見箱が設置されています。家族会や面会時に家族から聞き取り対応していますが、当事者間のみで終わっています。外部評価での利用者家族アンケートも利用しています。	利用者や家族の意見や要望と事業所の対応やシステムの変更を公表されることで、言いやすい環境となるでしょう。また、意見や要望等を聞きとることができる職員の能力向上を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや、月1回のミーティングなどで意見交換の場をもうけている。	ミーティングや申し送り等で職員の気づきや意見をとり入れられ、業務の改善等が行われています。	業務改善の流れが仕組みとなり、職員自らが利用者の快適に気づくシステムになることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一日のスケジュールを作成している。また、問題が発生した時は、相談に乗るよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の研究発表会や月一回の合同勉強会に参加してもらうようにしている。また、外部からの研修の案内があれば声かけし、参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携会議や合同勉強会に参加し情報交換や意見交換を行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの相談は、その都度聞く機会を作っている。またそのことを職員間で話し合い統一した介護を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時に、声かけし相談や要望はないか尋ねている。また、その要望に出来るだけ応えられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人の情報収集を行い、日中夜間の様子観察を行いサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみ等をしていただいている。また、出来上がった料理の味見や盛り付けを行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日頃の状況等をお知らせしています。また、外出時や外泊時には服薬の説明等を行いご家族様との連携をはかっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は少ない為、来られた時はまた来ていただけるよう声かけしている。計画に苑外散歩を取り入れ新しい馴染みの関係が出来るよう努力している。	可能な利用者さんには、近隣の方の散歩の時間に顔を合わせられるように散歩のしかたを工夫して、新たな馴染みの関係を作る試みがされています。	新たな関係作りのほかに、ちぎり絵や絵手紙など利用者のできることを活かしてお便りを送るなど、古くからの馴染みの関係の継続できる支援が期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係は上手いっている。時折、口喧嘩等はあるが、職員が間に立ち傾聴し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、様子を見に行きご家族様には、お話すの機会を作るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様より希望を聞き意向に添えるようにしている。本人から困難な場合は、ご家族より伺うようにしている。	利用者の体調に合わせて個室での摂食できるよう配慮されています。管理者はより高いレベルで職員全体が利用者理解ができることを課題として認識されています。	利用者の希望、意向理解には疾患に対する理解も含まれます。職員の経験や知識の段階に応じた利用者理解のための教育が求められます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人又はご家族様に尋ねるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状態を把握し心身状態の把握に努めている。又ミーティング時に話、職員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族、その他関係者と話し合い担当者が、介護計画書を作成する。ミーティングで確認しその他不足がないか等の意見交換を行ない、他の職員とも共有して介護計画書を作成している。	ケアプランの一連の流れは出来ており、ケアプランに沿って介護計画が作成されています。	より利用者家族を巻き込んだケア担当者会議の充実が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や、変化があったことなど記録するようにしているが、まだ、現職員は行なえていない状況である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるよう、主治医や医療連携、他部署との連携し支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防機関等の協力を得て、安全で安心して過ごしてもらうよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の納得の得られた主治医と連携を取り、適切な医療が出来るよう支援している。	主治医による月2回の訪問診療、歯科や眼科は家族の付き添いでのと受診のほか、必要に応じて主治医の指示により専門医受診を行っています。	今後も主治医と連携で利用者本位の医療を受けられる支援の継続が期待されます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携が取れ希望や、状態等を把握し報告している。受診や看護がスムーズに受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や情報共有に努め、安心して治療が受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一年に一度、ご家族様に確認している。又状態が変化した時などは再度確認するようにしている。	重度化や終末期に関する指針があり、家族への説明は行われています。この3年間実績はありませんが、管理者は利用者の高齢化に伴い看取りへの体制作りを課題としてあげています。	ご家族や本人の意向に沿って事業所での看取りができるよう、職員に対する教育とケアが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。又、待機職員を置く等の話はミーティング時に話すようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は行っている。地域の方緊急連絡網作成しているが訓練には参加して頂いていない。	年2回の火災訓練が実施されています。熊本地震を経験し、事業所として津波発生時の対応を重要課題として捉えています。	事業所の立地条件を踏まえ、行政・消防署からの情報取得、法人内での対策・体制検討したうえで、家族への十分な説明をし了解を得ることが必要でしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の声のかけ方や、対応について配慮が足りない所がある。その場を見たら注意するようにしている。記録等の取扱いにも十分気を付けるよう声かけしている。	権利擁護の勉強会を実施されています。また、利用者に対し職員の都合による声かけや配慮のない言動になっていないか、管理者を中心に注意を払われています。	利用者の誇りやプライバシーの確保について管理者と職員間で共有されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるよう環境作りに努め、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせた支援・介護を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出出来る方は馴染みの美容室へ行かれるよう支援している。困難な方は散髪依頼を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用するようにしている。味見をしていただいたり、盛り付けをしていただいている。	苑庭の畑を利用して野菜を栽培し旬の食材として季節感を感じるほか、食事の下ごしらやお花見時のおにぎり作りなど利用者のできることを取り入れられて「食」を楽しめる工夫に取り組まれています。	バイキング形式や外食など、時には食事の雰囲気を変えて楽しめることも検討されてはいかかでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をしようしている。摂取状況や摂取量を観察し記録しています。盛り付けや、色取りを工夫し楽しく食べてもらえるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々にあった口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにて排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし利用者それぞれの生活パターンにて排泄誘導をされています。排泄誘導の声かけや失禁時などの対応をさらに改善したいと考えられています。	利用者が快適であることが第一です。失敗や羞恥心や不安を軽減するためにも、情報を共有しチームとして取り組める体制作りに期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い便秘予防に努めています。主治医、看護師と連携し服薬を処方してもらいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴計画をしています。また、季節に応じ、しょうぶ湯やゆず湯を提供しています。	週3回以上を基本として一人ひとりの意向を大切に、くつろいだ気分になれるよう支援をされています。また入浴日以外は足浴を実施されています。柚子湯、しょうぶ湯などの季節湯も行っています。	地方の産物や時期の花を活用し雰囲気を変えることで、より生活の中の楽しみとなるよう工夫されてはいかかでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人の希望に合わせています。寝具の調整や室温管理は職員で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を把握し、目的や副作用は個人記録で確認出来るようしている。又症状に変化がある場合は主治医や看護師に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事を計画し楽しみを持てるように支援している。できる事はお手伝いして頂く。(洗濯干し、たみ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩の計画を立て支援しています。また天気の良い日は外での食事やおやつ等の計画をして提供しています。買い物も希望者される方は月1回提供しています。	一部の利用者に偏らないよう本人の状態や有する能力を勘案し車椅子の利用するなどして近隣の公園や神社への散歩を積極的に行っています。利用者の希望に沿って買い物支援もされています。	個々人の支援記録をデータ化し、検証することで特定の利用者に偏らない、継続的な支援が可能となるでしょう。そのことで職員の励みになり、自主性を育てる仕組みになるとよいですね。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方は、職員管理で預らせて頂いている。個別にノートを作成し収支を記入しご家族面会時に確認していただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼は随時対応しています。手紙の希望者は今の所いらっしゃいませんが、希望時は対応出来る体制を作っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔に心掛けている。又ホールには季節応じた飾りつけをしている。	ホールには季節の行事写真や作品が飾られています。家族などの来訪者に事業所での暮らしぶりを知らせるほか、利用者さん自身も立ち止まり見ることが増え楽しんでます。共用部分でありながら、一人になれる空間が複数あります。	複数ある共用部分を有効に使い分けができる工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や、好みの洋服などを持ち込まれている。本人に確認しながら物の配置は行うようにしている。	各居室の表札にはその人の誕生月の花が名前と一緒に掲示してありました。部屋の中は利用者の若いころの写真や生活歴を感じさせるようなものも飾ってあり、その人らしい空間づくりが感じられました。	今後も利用者一人ひとりの意思を尊重した居室づくりと、時間の過ごし方の支援の継続が期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を把握し自立した生活が送れるよう支援している。		